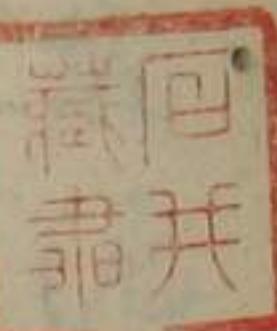




魯西亞志

名義

桂川甫周 国瑞譯



魯西亞ハ、洪古沙尔馬高亞ニ称シテ國ヤ、
ホルム半前半、スラホニヤ、翁加里オニカリ亞國アカリ、
三人の諸侯ちと其名トセクスレクスロシス
ニテ、コロシイ、翁加里亞オニカリ亞アカリ國アカリ地アカリ、
の國トナリ、昂今オニ波赤米亞オニ、入爾エル泥
亜國アカリ地アカリ波羅泥オニ、魯西亞オニナリ、ロシスオニ、

開きする國あれど、其相を以て名を以て、其
之名は「アラタナ」也。其俗を「ロスラント」、又レウスラント。
ニ称え、ル魯西亞乃精泥也。或ハ其開國の
始り、及ひ國の名號詳アラタナ。此ノ事後亦
有リ。ヨロシイよりもましく、ロシスの漢字をもふ
有リ。其名と曰く、國名とせし事、能あし
日本人と、三邦より久ち、各其彼を立殊す。而
之れを三州と為し。

其一と、ローテロスラント、亦魯西亞といふ波羅泥
亞、カ一郡の地なり。其說ハ波羅泥亞の下よ
載ス。其ニと、ウイツテロスラント、ミロアロシヤ白魯西亞ニシ
クタウウエン、波羅泥亞、ムジカ地なり。今ハスマーレン
スコ、ハ不勝也。其ニと、スワルトロスラント、
黑魯西亞ニシカ。魯西亞の本國也。而模斯
哥未西亞也。但、模斯モスカカフニヤ、其名ホニアの名の如
キ事と詳アラタナ。其都城の地と、模斯モスカ
可鳥心コウシとんく其國とも爲る。模斯可

未西ふ称ひるを以て、今此赤白更の三
州を合ひて、草々魯西西と称ひる。八年
曆五七百二十二年。享保六年より始く、帝號を
移せり。ヒイトルといつて、帝號を

幅員

魯西西の本山を、長さ三百餘里、の廣さも
大極相因り、近東西納西洲の韓靼め、
北きを侵孫し、南より廣大の地にて、
往古よりも幅員、叢倍す。

其上を以て、雪澤スウエー、西デンの地と併せば、
その他の廣大諸島をありや、世界に是よ御
を争ふべき、ふるしぞり。

海河

歐羅巴洲の宣教海、十名あり、其内立名、
魯西西の境國内、係るあると、方々羣ヤ、
窩カナ、所ス、注ドゼイ、一名、伯乐ハルヤ、セゼイ、宣教、雪降西
國の海湾ララ、ランド、
白浪ウイリラセ、亂皮ラジン、西の海湾をり。

氷海

北極界マツキヨウエイ有アリ、

黒海

度ト尔格ルコの境ヒタチ有アリ、

北高海

百尔西ハルシ亞ヤの境ヒタチ有アリ、

大タカシ小コトコト大河タガ、

尼布

尼布尔河アルカ、一名テニス、フル河リクタフウエン、

波羅泥

亞ヤの間ミツ有アリ、其源ハスマーレンヌスモーレンスニ、

北ホロ

ウラルコンスヤウラルの池コノハの安ストト盈ヨウして、

ヨ流

亞ヤ黒海マツカヘ入ル、河口カワヅ度ト里リ其

中コトコト

小河コトコト有アリ、名林木コトコト茂盛マサニ也ハ、河カワ

五十里

餘マツ写マツ、瀑布マツバの如シマツ々シマツ、

不十

三マツ有アリ、而マツ之マツ皆マツ舟マツ運マツ、以マツ之マツ通マツ、

國カナと

度ト尔格ルコと、此マツ多マツ數マツ度ト合マツ發マツ、

勿爾

尼布爾河アルカ、又マツ源マツ池マツ、尼布爾河アルカ、

因カム、西マツ東マツに流マツ、曾マツ西マツ山マツ中マツ、

亞ヤ私マツ

尼布爾河アルカ、地マツ、小高海マツカヘ、尼布爾河アルカ、

冰マツ、多マツ有アリ、大マツ流マツ、當マツ、是マツ時マツ、

貨物マツ、大マツ移マツ候マツ、亞ヤ私マツ尼布爾河アルカ、

大マツ乃マツ河マツ、一名マツ、ドン河マツ、主マツ原マツハレサマツ、

地マツ、

水

北、タツタンを経て、迂曲して、墨竹的湖ケゼー
黒湖ホクスに入れ、此處底沙多く水深一、五尋
以、水の底沙を引車、勿尔瓦河ウヲルガにたる
モ御大船を用ひて、税物を運送す。
杜トド大金ライフ河、其源一而二也、アルカンケルの地ヒ
より、ニ流ヒる。別岐と白溝ヒツクに
阿比河オヒ、小河溝ヒガタは源ヒメく、も深く底ヒタ沙シ、
魯西画ルシハと、單ヒタチ、大河と称する。是河
を皆名を、カルレッケンカルレッケン奇キヘレワウヘレワウの地ヒメぐ
莫

ても、河中ヒタチ魚ヒメく。

本國ヒメニ、帝號ヒメノと称せり。一世、セイトルニ
也ヒテ。帝、タツナカ湖、ラトナ湖ラトナの名凡六十七
尾ヒメ間ヒメ、右画ヒメと、左画ヒメと、鑿開ヒメて河
道ヒメと、画ヒメ、商貿の画ヒメは、使ヒメト、莫世
利ヒメを、發ヒメき行ヒメり、それと、其功德ヒメ大矣。年ヒメ
河床ヒメと、之ヒメよ、永世ヒメ傳ヒメえく、是ヒメるなり。

隣

家

北、雪陣スウエーデン

除

西、波羅ホロ

泥、南、度爾格ヤトルコ

東を大タツタンと名と稱、至時興細西湖の
北凹と否儀アリテ、支那、日本東西、シモノ
を交ゆ。

風 ち

此邦陽負廣大アリて、三百里又直アリ、少く共
氣候の変候、土地の肥瘠も、亦一派ナリモ、此
は其大較と考ガル。

西の方、波羅泥粟、燒ける地と最も燒ケリ
とも、糸穀と以爲凡地、凡二十カ穀の如キナム

品、西國の糧よ供するのミナリ也、多くを鄰
乃藩山より輸フ。

北方の地を、氣候極めく冷、洋を異常地、
モ赤苔藻、泥を多々有、森林、池沼のミナリ、
モ弓節歎、ミナリ、穀、一人を多く、江海
ヨ浮て、漁獵を主ト、高麗度モ、ほとモ堅
ナリ、又、ウールラスレニチイルベルデルス、白狐、玄狐、
サールス、狐、似テ、小毛立キ、皮ヘルメレー子ン、鼬の毛
を產モ、此上ナリ、草と、芻草ス、最上ナリ

何字

其價も頗^タ高し。又庵不^ト一夕^トうきらす。
ロス^トカ、一名ハーレフラー^トシ^トは故ゆく。主^ト食
と食ふねを食^トて口^トだらぬ。飲^ト飽滿
て、舉動^トも半^トあくとも、死^トもうめくな
る。身^トよ、身^トの肉^トはく、二本^トの舌^トも才
をそそぐ。食^トも物^トとた^トはく。又再^ト
身^トけり。タツタニ 海底^ト
異歎^トあり。もろべヘモット。シソ^トも齒^ト大
き^ト。わざわざけなく、魔^ト元^トを食^ト。

潔白清^{シタク}洁^{シタク}に^トして、美^{シタク}け^{シタク}、象^{シタク}と^{シタク}す^{シタク}。
江海^トの魚^ト、也^{シタク}はと^{シタク}、咸^{シタク}た^{シタク}、乾^{シタク}腊^{シタク}して、淡
がれ^{シタク}、掌^{シタク}よ^{シタク}れ^{シタク}。之後^トの食^{シタク}、も^{シタク}は^{シタク}、但^{シタク}雞^{シタク}
乃^{シタク}屬^{シタク}あ^{シタク}れ^{シタク}。畢竟^{シタク}は^{シタク}、あ^{シタク}ま^{シタク}あ^{シタク}ふ
し、凡^{シタク}の^{シタク}あ^{シタク}ま^{シタク}、を^{シタク}き、三四十^{シタク}升^{シタク}よ^{シタク}る^{シタク}也^{シタク}。
レインムーセル^トの^{シタク}あ^{シタク}河^{シタク}、燒^{シタク}木^{シタク}、諸^{シタク}方^{シタク}
極^{シタク}き^{シタク}、亞^{シタク}初^{シタク}を^{シタク}曉^{シタク}す^{シタク}也^{シタク}。相^{シタク}迎^{シタク}て、他^{シタク}
も^{シタク}多く^{シタク}藝^{シタク}術^{シタク}也^{シタク}。うき^{シタク}、多^{シタク}、英^{シタク}雄^{シタク}。

を送り、ソシヒ、左山、右山、桂、モレニモ、モレニ
モレニセモ。

本物、蚕絲も、最角く、松よ、松の樹物、
を製して、文華易の料も。

は郊、交易中、一の沽郎を、皮草、牛皮、醃肉牛
脂、蠟燭、苧、麻、蜜蠟、毛皮、うわと毛皮、
莫大の交易を有す。

魯西亞の保ある不、歐羅巴、亞細亞二大保
も有す。今、ヨーロッパ、ニモ、

第一インケルミランド、礼勿泥亞、旧雪、陳亞
の地、ナリ、今、魯西亞、保也。徐

第二西魯ウエスト、西亞、即、本國の西方、一分の總称也。

第三東魯オースト、西亞、即、本國の東一分の總称也。

第四魯、西亞、蠟皮、亞

第五魯、西亞、韃靼。

右立部之内、縣府と建、首長と置、凡
二處。

一諾勿尾湖的、ニアルカンゲル、三漠、斯可鳥。

四、ニスノウゴロド。五、スモトレシスコ。六、キウラウ。
七、ヒイロゴロド。八、ウラロ子ス、并アソウ。
九、亞私大蠶耳アヌタラカニ。十、オレンブルグ。十一、加山。
十二、シヘリイ。

インゲル、シラニド、一名インゲルハルラニドの地とヒ
シラニドの海濱と、テトカ湖、ありアリあり、幅
員六十餘里、地頗多饒りて、獸畜也
又盛產、百五十餘年、前ハ魯西亞の主す
くよ、中一ころ雪降、雨雪ハジメ、又七百二年エスティ九年

再び、魯西亞より併をうる。翌年、け地。初
づく、王塚を起し、テル帝の建らま
せば、郊なる、カム、ペテルスベルクト、名づく。
ペテルスベルク、インゲルハニラントの、ソミ縣
に、魯西亞第一の宏農繁昌の地す。
北極六十度、西銘島を離さず、四十度
ハヌ鈎ハツカニ、左側とハハガニシ、河の内
ヨニツの、をと食せく、もあよ、六種ロクカツ。

築をう。オ一の島とハセン卫イアンドニ
対岸の跨門^{アサヒ}、か郭^{カマツチ}と擅^{シテ}く門^ムの上^ア。
ル帝の肖像^{カマツチ}と安モ、鰐石^{カマツチ}、三サミ太^{カマツチ}、鉢
ウラヌ^ア、候禱祠^{カラカ子}の大鏡^{カマツチ}と藻^{カマツチ}、引^シね琳内
スミ、宝塔^{カマツチ}と遠起^{カマツチ}モ、元^シ意^シ在里西^{カマツチ}、良^シ
テレシニ、ナリミ^シ、造^シナリ、屋^{カマツチ}を皆
金貼^{カマツチ}ナリ、塔^{カマツチ}上^ア自鳴鐘^{カマツチ}と掛^シ、^ア時^{カマツチ}た
の^アに^ア、^ア時^{カマツチ}と報^シ、又自音^{ミシカノ}写^シと奏^シ
モ、これも、御^シ糸^シカ、アムスラルタム^シの造^シキ^シ

ナリ、その地湧^{カマツチ}移^シ、國創建^シ善^シと極^シ、
言^シ之^シの及^シする事^カナリ、^シ代^シの帝
小廟^{カマツチ}後^シ、^シけ^シと^シ宝^{カマツチ}うき^シを^シ、^シけ^シと^シ被^シ寶
塔^{カマツチ}、^シナ^シ七百^カ十六年^カ、^シ宝^{カマツチ}居^シて、^シ火^{カマツチ}と^シ木^{カマツチ}燒
失^シナリ、^シ学^シ校^シ葉^{カマツチ}局^シと^シ設^シけ、名^シ壯^シ蘿^{カマツチ}を^シうけ
ひ、葉^{カマツチ}局^シを^シ取^シる事^カの用^シ葉^{カマツチ}を^シ切^シ漏^シが^シ是^シ邪^シの
珍^シ物^シの品^シれ^シま^シを^シ備^シく^シり^シら^シと^シ、^シす^シる^シく^シ送^シる^シを^シ
シ^シか支那^シの磁^シ器^シと^シ之^シを^シ收^シめ^シ行^シふ、第二の
時^シと、アト^シテ^シリ^シ、^シ空^シと^シ、立^シ棲^シ、廓^シと^シ擁^シ房^シ

に大統と列ゆ。園より内より楊園八
建^{アキラメ}くは、收夏日黑と取る。不とも例も大
な園と用ひ、其内より船^{スルカタクリ}或^ハ噴水
等と設けぞ。よそ百石^ホ六年、^五富原^ヨに厚の
え移と造る。悉く通株篠梁令堅目と奪
ふ。亥^ホ子^ト天^トの偉觀^{アシナリ}、又馬厩、象厩とつて、
其地、豫工治工、舟匠、甲冑匠、書肆、有用の百
工備^{アツブ}もそろひす。兼三の島^{ヒシマ}、ワシリヲ

ストローウ、ニツフ街と、十二條^{アヂ}より、往來と通。
浮梁^{フナ}と、二鴻^{スカイ}と、浮梁の長さ、六百餘
丈、ベル弟ニ世の帝の造らまつたるを、海^ヨ
吹ん^ス園と用ひ、宮室と建^{スル}たり、一里半
許、夙京^{スル}猶^シ未^タ、海序^{スル}、庭と築^{スル}、
意^{スル}にて、篳^{スル}と草^{スル}、行湖乃有^スと思ひ、又大庫
と造^{スル}、貨物と貯^{スル}、ニケ^{スル}、茶房と書院
校と設く、但此地、ラルか、ラトか、あ湖の河、河を穿
過^{スル}て、太船と通^{スル}が、既^スは、底^{スル}、食糧也。

常に之へ、交易の便りもあり、うしよ、
帝の治より、みせ百十八年、享保^{ニシキ}十五年、
あ湖の写、十六七里うほと、廣カセよ源サニ丈
メ、河乃と鑿金完く、凡一十四手を越て、みせ百
五十二年、享保^{ナセキ}女帝、アナリはよゑとて、加給
せり、開けの、丁支二万口より人を用ひ、
諸物の運送人の多くするより、土地の弊昌
爲義、すうち言ふ及毛、至濱の沿ふも、主條は
とうふひづらが、余世其事業のちやる。

洛ほの厚をすと、仰うさうをす

礼勿泥亞

北

ハ、ヨンラント、の海湾、のアミ、アハ、窩^カ、^ス

洛海

トセイ、際、有、コウルラン、よ接、東ハ

フレスコウ

ノル、勿入、亞、よ接、南北わフ

百餘里、東西六十餘里、その地を肥沃

して、最勝敷

ス、有、西ちカ、諺曰、

少方^{カニス}、穀、窖、ト、称、又多く、^ミ、臘魚、臂

鯉、援魚、狼、鰐、卫、ランツレンケイル、鹿、兔、產

富庶毛他乃法知ニ減セシム。但羊毛、
毛不外ナリ。林木を伐樹、木最多一石。
ちん多く薪のみにて、屋を造る。西洋の屋
用又磚瓦を用ひ、檻殊。近百年來、
に木のと用ひ、木もソシ。近百年來、
漸く材を伐開き、田畠と化す。

交易の貨物を、

大麻、苧麻、涇青チャヤン、
タルキナシ、苧、繩、密、ホットフス、皮
草等なり。

西魯西亞

此地約二十三乃至二十有九、而謂

漠都可烏、チウエル、ロストウ、ヤレスラウ、
ヒーロラーセ、ロレユスクル、縛羅得、株尔

以上七道中、ちよあり。

ウスコウ、ヒールヌキ、ンスコウ、スマレンスコ、
セヘリイ、ケセルニコウ、ユクライ子、

以上七道、西方也あ。

諾勿瓦的亞、カルガホル、杜亦拿、

以上三道、北方也あ。

傳羅答ロクダニスノホコロドモルトア

以上三道東方あり

ウラロランレサンホル

以上三道有方あり

漠那可鳥魯西亞カ中ちよりもそ
縣と即ムスコウニシムスクワ河刃より北
極六十五度、三十六度の地なり、二百年の
うち、魯西亞王の居城アラカニヤ、既羅巴第一の大城
アラカニヤ、周圍十餘里、居人凡十五萬

其内と四ツ角、各石垣と築き、溝とは
アリ、固めこすり、皆赤瓦起石多く、仰角也、
三層の佛塔と建て、溝とを塘ち
て築、固めぞ、又圓圓と設け、老樹を移
して、京猿と佐く、又六の寺有、寺一ノリボルニ
シハ宝塔九重皆、後金の祠廟と見い、内戸
は、後金の被板と見る、故より之よ映
く、光輝螺網アラカニヤ、眼と射する、サナ

と、シントミレールニゾ、魯西亞王の廟所也。ア
リ三モ詔主后妃の墓なり。此ひとつモヘ
ト、ビンチンスクート、ラム内御とソレ也。ナ
兼三の猿とキヌイゴロトニゾ、又支那御と
称也。四國ハ石垣もくそく也。圆形
方形の敵機と、較多連列ね、屋家ハ皆
瓦スとテ仰あセリ。又石垣と加蘇ミ
ビンチンスター。ナはモモテノ移乃、萬造極く
精巧と云。内庫、武庫、學院、書肆、

茶房と没く茶ふもえれ。玉石等を用ひ
良善者とモセリ。交易の大鄧、半錫不
專支那の貨物を取捌く故ニ支那御と
称也。因國白石をナフク。石垣と造テ
ナル山也。名けアサナルナリ。城の形本月の
形ナム。其内ニ百工商賣備もラスル。又
木迺モアヤリ。又アムニテ屋を造るナシ。有
夫あり。伊原流と號す。其佗旅館、酒店。

ホ者け街^{シタ}よく釀^{スル}をる。ヒイル酒^{のタマ}、モ^{テキ}
上^ノ市^シ味^ミ古^カ販^{タナ}をり。第四ハセメライコロトニソ、因ニ
堀^ヒを築^キ立^ス。二ツの石門^{シモ}あく、度^ス兵^ヒ例^シ重^シの
学^ク校^ガはれ。廻^シ家^{アリ}。あを因^ス故^ス、時^ス火^{アシ}炎^ス者[。]
テウユル、勿^シ尔^シ河源^スあり。男^{アシ}酋^{シヤウ}長^{シヤウ}者[。]
今^シち諾^{ハシ}句^ク瓦^{アシ}的^シ亞^シの不^シ屬^シたる。トル帝^{シヤウ}の
テウエルサセナ、あいを鑿^{スル}。ト^シひくづり、
今^シち王^{シヤウ}海^{シヤウ}少^シ。海^{シヤウ}、窩^カト^シ不^シ德^{シヤウ}海^{シヤウ}、船^ス、
と通^スすをや^シすをう。

ロストウ、謨斯可鳥^{モスカウ}の北^ヒより、古^カ之^シ饋^{スル}地^{シタ}を
センスラウ、勿^シ尔^シ河岸^スあり。、
ヒイロシ^シ一^シセロ、勿^シ尔^シ河^シの西^シシヨ^シアリ。古^カハ別^シ
夷^シ長^{シヤウ}、ノ^シト^シ、諾^{ハシ}句^ク瓦^{アシ}的^シ亞^シの要^シ属^シ也[。]
シユスダル、亦勿^シ尔^シ也[。]以^シ岸^スあり。
縛^フ羅^ロ、勿^シ尔^シ也[。]勿^シ尔^シ才^シカ^シア^シ河^シの下^シより、
フスユウ、礼^シ勿^シ泥^シ亞^シ、ニ^シ協^シト^シ接^シ也[。]千^シ九^シ百^シ四^シ年[。]
永正^{ヨウジ}、本國^{シキ}属^シ也[。]

ニイルスキ、波羅泥亞の塊あ。

シスコウ、リタウヨンノ坊より
スモウレンスコ、リタウトエニヨウヒ、モウ本國、
波音泥西亞ニ此地とあそびて、あく合
戰り、あひ百ナニま、貞享三年より本国
歸し、縣府を達、首長と至

セヘリイ、赤クリタウーネンの坑リより
ケセルニコウ、波^{シテ}泥垂の畠又者

ユクライ子、波羅泥亞の地より
も一ふ事も

カルカルホル 白海
諸刃凡的也 内傳

杜亦禽 杜勿禽 河の白鷺よ江で
まわる今アルカレケルよ 縣府と建

傳羅答。アルカンケル。ナリ。附屬也。
ニスノホコロトヲカ。河の勿尓尾。ウヨ合也。ノシ。

有今別々酋長と互

モルトア、トンラカ、あ河のアリマアリ。

ホル、韓靼アリ、其地を廣大アリ。
レサン、南小韓靼アリ、地極アリ、多饒アリ。

東魯西亞、此地別て七道ニナリ、而渭

ノウゼン、一トソラ、セレンスキ、白爾米才、
ユストユク、ウイアトスキ、ケセシミワシ、

メハゼン、白海氷海アリ、無く不毛の地

但林木多一

ヘトソラ、地氷海アリ、ワワイカツト、の海峽
ヨジル、地廣く多く、若アリテ、人居ア
リナリ、氣候極アリ、河海冻结、四年
解アリ、アルカニケルアリ、附屬アリ。

マレンスキ、其地多く、峻山茂林皮草アリ、
て賦税アリ。

白爾東方、レヘリイと境アリ、漠乃可烏
を去ル、丁二百三十里許、海と来て、曉と處

す、又とど以て生産とたまくもの二万人
エストユク、杜亦禽、沿序より此地も亦多
く茂林のとなり、杜亦禽は沿序より
人居あり。

ウイアトスキ、カサンヨ附屬、

ケセルニワシ、

韃靼界ヨアリ、ちんじゆよ

射とどくモ、

魯西亞、噶皮亞ララシト、此地の汎と、雪溝亞の下
よ哉ス、此を白海カ沿序魯西亞ルシヤヨ属、

掌る者と掌て、シカアルカケルの酋長ヨ隸モ
ムレヤレフコイ、レホリイ、
ラルスコイ、レホリイ、
ヘラモンスコイ、レホリイ、

以上改羅巴洲ヨ係、

魯西亞韃靼、

此地も、亞細亞洲の北境も、シカ魯西
亞を傳ヤトシタ、地ナリ、

小韓靼、改羅巴度爾格ヨ属矣、故ヨ其

モ六度尔格カトメ詳シモ、大韓靼少壤の
地を今ミテ魯西亞屬ニシテ改
て總称シテ、魯西亞韓靼ニシテ

魯西亞呑得の地、亞西亞ヨリ係リモ、却
て歐羅巴有モノトクモ度ナリ、東西九
千六百餘リ、南北ハ百餘リ其風ちも一樣ナリ
モ、南方の地、歐羅巴の風ち似て、地も六
歐の肥沃ナリ、北方及ひ東北の地多く
山林曠原ヨリテ不毛の地多シ、シベリの際

ヨツシテ、此地の度大ナリ、
モ、たゞ各地色偽セシム推モテ、モ内を
國ヨリ縣府と建置するも、ヨツシテ
一、十二州の内、九州の四州ナリ、而
カサン、オーレンベルグ、亞松大蠶^{ラカニ}ス
此州高葛^{タカサコ}山小仰^{ヤス}の地ナリ、
カサン、此地ハ勿至爲河川^{アリ}アリ、加馬河^{カマ}是
の中多^{アリ}ヒヨコ、勿至^{アリ}モウフ^{アリ}、けあ
ね^{アリ}モ、曲尺の形うと^{アリ}、ほ^{アリ}の木

韓よりは少くもす、稍礼節と解ひて地取
して、民物豊饒なり。旧は地より民をし、
かわ百万石十二年より、天文二十二年魯西野より奪られ
たり。そは縣府を遠、酋長を立、御よち地
をしきり。旧のカサンよりは、無信の地と
なましく、フルカルの地をもとと廣尔拠所
籍なり。其酋帥を逐テ今をガサン
の不脅ともす。

カサンからげ地のそゝ縣うして、布街屋室

頗る美熟なり。勿尔尾河なり。黑海より貨
物と運送しても、度尔拾と大交易を為む。ち
人を本国の人々に韓より難て居る。其餘郭
を、石々。砌石すしより、化の人家案柵、皆
木と用ひて造りたり。寺觀五十处皆石にて
造る。千七百四十九年、寛延二年、宝曆六年
十五年、明和二年、大丈丈て人氣もしく焼矢
せり。

コサイスク。

伊爾尾河岸もあり

ベルメイス、カサシの西ノあり

サセウ、サニラとソム河岸ヲアリ、勿尔尾ノの

支派ヲ

キムラ、勿尔尾河岸ヲアリ、

フルカル、加カムニサルメのを傍ヨアリ、カサシの西二十

里の小邑ヲ

ニイロイセル、

シンスルスキ、

セイルサジ、

サラトフ、皆勿尔尾、治岸ヲアリ、小邑ヲアリ、
オレニベルク、今ノ魯西亞ヲ、縣府ヲたてテアリ
地有リユハノ有リ、主地ヲカサンヨ接シ、駕
河、ユラル、山勿尔尾河ヲアリ、主小ヒュ
ヒミニシヨ、有リトハシキリニシヨ、其土俗ハ、韃ヌ
中ノ大勇種ナリ、ナリナリ、也シ國ヲ喰シ喝シマ
の勝シ、勝帽ヲ頂ヨうシ、名ヲ隠ヨシク、
常ニうシ、常ニすムキシ、佛經及ハ回シ
教ヲ主宗シ、今ノ魯西亞ヲ、テ蒙タ帝

度々幸とも多く遠き所へ
多く、エハ河岸より多く、伏高と巻
すり草と産業と多く、ち度ち法敷、幌皮
草、猿、馬多し、俗名と愛し、良馬之セ、以
て之、一妻、櫛、よせ百三十五年。享保二十一年
女帝、アナ、縣府を遠く、酋長と至る、
尊、正送して、正義といろり、ち人の做送
たる風俗と、先祖のせりゆゑに、
ユハ、ユハ、河岸もあく

ホルシンスコイ、

オルセノイ、并ヨマイリ、河乃ヨアリ、木柵とん
て、因、固、固、固、固、固、

コンカル、此地、大なる、ち害有、人居のぬし
家、天造たり、甚奇觀し

け北よ大山有、エラル、ニ冬、けく、あく玉
石馬脇の、と、度、

西村太蠶耳、地ハ小島海、嶺、勿尔尾の河
里有、千五百九十四年、天文大魯西西

併ちる。其比頗々饒かく、此地の所味
あらかく、ヘテル帝、レイン、ムウセル、
葡萄を收めし極く、今も繁衍せ、其西
の、黒海、地中海、アラビア、皆河地、
諸と涌出と、太陽、西、アラビア、自古
結成し、今も更殊よりく、光明透徹
水晶の如し、モ價もあらうべく、
亦一粒の奇珍とぞ、シカ一、パスコロイト、
此語羊草と云ふ、茎と袖と、實と珍る其
次也

状況とて革の如し、毛皮、毛と、生え
且其毛條の革は、歎の美とぞゆゑてな
まく、を割きとあけとぞ、血の如し、味似
似又勿尓毛河の毛河よ近く、河口にて、ステ
ウルトソ、多と捕る、毛と加れ、専らと云ふ、
魯西亞境とて、イタリ、ソソ、諸邦を販賣
す、最廣大なり、文政十九年、小蘭
人、一人少く、ハ万レーキスダールテル、金海の名掛
のイタリを買、ナラキナカニ。

西私太蠶耳思ちは地のそ縣ナリ勿尔瓦
の河口トトルコニソシムヨリ、人杰洞賓^{ミツ}
都体^トと因國一里許、角く歇樓^ト達^ミ
要害^{シテ}處^ミをよして、あゝし完羅美貞^{ミタウ}
も美觀^{ミタウ}、城内十六固^{ミタウ}石星^{ミタウ}
以^テモ、少極に十六余^{ハニシ}二分の地^{ミタウ}、氣
候^{ミタウ}極^{シテ}冷^ク、肩^{ミタウ}とソ^{シテ}署^{ミタウ}と
名^シを江主^{ミタウ}ナシ、勿尔瓦のゆき最大の
河^{ミタウ}ナシ、一面冰凍堅^{シテ}凝^{シテ}、車馬^{ミタウ}て

渡^{ミタウ}シ、常に度^{ミタウ}尔移^{シテ}西、尔移^{シテ}泥^{シテ}西、百
尔西^{シテ}、仰^{シテ}度^{シテ}人^{ミタウ}地^{ミタウ}、裏^{シテ}已^シ矣^{シテ}と
來^{シテ}有^ス、百货^{ミタウ}群^{ミタウ}集^{シテ}、人烟^{ミタウ}稠^{シテ}、^{ミタウ}、^{ミタウ}
殷^{シテ}焉^{ミタウ}地^{ミタウ}、^{ミタウ}人^{ミタウ}有^ス、^{ミタウ}極^{シテ}と以^シ文^{ミタウ}
貨物^{ミタウ}と有^ス。

カリセン、勿尔瓦岸^{シテ}山^{ミタウ}存^ス、^{ミタウ}木^{ミタウ}と以^シ
て体^{ミタウ}と有^ス、

カラスノイヤル、

ツケルノイセル、^ツ勿尔瓦河^{ミタウ}有^ス、

ヤケクヤイノ河岸ニ有、歩道と川岸業
ナシ、又カイヤールをシテ支易を為モ、
此花トシ勿尓凡、有大河の開有。四ララ
テカミシンガ、ニシテ小島あり。一ハトン河ヨ
入、一を勿尓凡河ニ入、モ写ス。ちうニ
ニ里斗石ヘテ、五セラ年元禄十ニ年、ヘテ
ル帝、けあひ玉鑿也。ヘルスヘルシメ
ノフトカ湖ダム、形ヒ哉。ウラルコハ湖
諸勿凡的垂、源也。テウコルドウウラルガ

河ヨ出、新河ヲドン河ヨ入るまゝアリウヨ玉、東海を波、公移尙丁敢波金
久ホ歌の都、ノ極ニ地内海と云也、ホ江波、欵
己亞弗利加ニ大あミ界、ヨリ、清
地申、あめの海、ロナリ、アシケル
レト、の海波、至跡テ、ノラルト海ヨガリレト
一ノ湾、ヨリ窩、ノ江波、波ヨアヒ、再ヒ一テルス
一ノグ、ヨリ帰る、モ角、迂曲航海、凡四千四百
メ、三季モ航、一週セリ、は船泊乃
リ、け、ノ、欵羅已諸國交、易の候也

一車、いづれも百倍以上、テル帝の筋武
シベリ

名義 帽貞郡界

既向、シヘリニツフリト、シヒルニツフリテ、河の橋
シタルナリ、シビルとは那北首縣の古名也、
モ化ハトルスキ此處の才、魯西亞ニ、何以河の
間、あ小ニル錦也、东あ百半錦里の名とシ、
リニ称セラ、今を亞細亞の少々、大韓靼の地
を也称シテ、シベリニリ、以も也稱シ

西を魯西亞に接し、東は東、大東洋、又至
即亞納亞のニシテ、亞墨利加ニ男とな
セヨ海峽ナリ、南、支那、拉立韓靼ニ境と交ヘ
東西凡一千里有餘也、又少ヒル錦也、古魯
而西韓靼ニ称セラ、歴、政府巴の安、魯西亞
カホ國、日本之の地ニミナリシケ、漸々侵孫
テ、今は此地まで、もしくも山ノ彼脣セラに
シテ、又称シテ、魯西亞韓靼ニシ。

河

魯國より徐子の河を改よ上よ漢よ古
此は其の背の地。有る事と改。

此處甚是情の地。有主と改

卫ニセケ河一名卫ニセア河海比河之东二万徐

有、達、草、諸、子、ケム、ニ、ノ、エ、セ、イ、ス、エ、イ、ノ

巴^ハより河^カも潤^{マツテ}た^{マツテ}秋^ハよ^モひて水潤^{スル}時^ハ

水力流已盡す時も石托は乃く河中
魚搬扱て多し之味他才あり江戸邊を

高
原
大
地

レナ河迂曲を多く流す。二四〇里小
の川が源より河中より左岸に伏雄多く
ある。狼山にて源を引かれて、河口の下

シントマ
アリスカツトカセ
ウロオノアヌタ

家め東北六東洋又江

アムル江 一名 アムル又アムウル又サカリイニシテ
チウロの東め方にサカリイン多シ内、底水

八百餘里東國を走る野に、ありて濱

一ノ

風土

は北も度大さを筆候も一様たりす。有の方
並御東のことを地肥沃なり。少の方及び
東山北山を多く渡山候。尔も燒酒を完
又果實を生むるゆゑ。大人の只赤魚
鴉鴉のことを産業。少方は地主を極めて
江戸。一里のうち多くを多めに作る。

河水つねにありて地ちよ横雪たるも。夏比
氣候はかくしかなり。まづい雪消え地
上泥ち二尺ありて下る。雪もあれば
多く材木と表せられしも。極少かくも
荆棕蓑雜木の如きて。絶て喬木は
有り。畜産りて牛馬羊飼牛
等あり。また、諸穀と表せ。年ごと少す
物かよ精進す。また、即鳥獸之類を後
れ食す。ありて鹿豚羊、羚羊、シニヤラ

シテイル聟猿兔狼黑白熊玄狐又彘の皆上車
黒き十文字の有りの内、サ尔斯ヘルノレイエンニ
ルテルスウエーセル ナイス。エーキホール、水牛、ロフセン
ウエクテンヒサムス麝獸、シナリ、又多く皮革を
いもす、能ヤ、玄狐、サ尔斯ハ、ばかの名忌とも
玄鹿の皮革ハ、ちゆよ輸也、アモイ
巴の猪也、駒く、價也亦、モモイ
此地と、本國とて、モ、モ拂拂、ミチ地とて
死鹿のよ、モモイハ、戮闘、モ、據ヌヤ、今ミ

處一、サ尔斯コルテルズ、ユセセルス茅と捕りめ
テキテ食料と、毛絨も、毛糸と捕
リ定候也、も首長り、点検して、兵の
たゞくらもの少々、罰とかく、土地廣大ナル
れ、うち傍回し、かくす、ちふの、人も多くさだ
居るなり、ち度審査、牛脂、一フルケル皮革
多としつゝ、支那、日本、韓靼、及亞爾默泥亞
等北全文也とたずす、

併 背

あけハ此地と暖漠韓靼ニ統ヘテ本國
ムニシテノモ、近鄰の強盜なるヨリに
ノ彼遂シテ居テシテナリ。ベテル帝のソシニ
玉て、う比河ドリ。以东、大韓靼東小内カギリ
大東洋にソラミ。とくく呑佛カギリしたモ、
其ノ百餘年前、アーテル王のヒドリ。旧の
ジーリの地も、タマニ本國ノ彼屬セトナリ。
テキヨタニ、東北ヲを侵孫カギリトヤマモ、
但東もモンゴル即チの地ハ既ニ支那ノ彼沒

す。久て、五百十九年、え保ニ二年、モタル、
郭を起して國とたれ、その他の地も悉く
一トル市化さるに至國。後ヒテ、又あ七
百二十ニ年、え保十一年、舶用加比丹、アリシク、スバーン
ヘルク。ツキリコウ。二人シテ、是地の圖卷と造
レシモ、ヘテル帝崩シテ後、あせる二年、え保十年、女帝アナハ、
アナハ、御ゆりて、モタル、御坐す。
國もといひ、支那カムニカツトカ等の日本、

説程を詳審を以て、行路を安穩す。ナラナラ

私家

は郡の大酋長ハトホルスキ也。府城は在る。又
はナリ。よると、卫ニセイスユイニ。イルツツキシモ。主
にて引ヨ。トホルスカニナリ。

トホルスキ、

卫ニセイスユイ、

イルタツキ、

各別々、役をとひ、郡縣と建モ。且つも

くに首帥と名きて隣りしむ。其各主地を
若シきもの乃至と下す。載候

トホルスキ、旧シヘリの祖國也。魯西亞の東界よ
瑞爾、モルガ大河とトホル河とよ。且つもひそ
そ山に名ねたるなり

トホルスキ、即け此の首縣なり。トホル河又左。
少極みナ。度十二ドヘ地ナリ。府城とハ山上す
またナリ。シヘリ也。大酋長は地を居る。又右
三十年、天文十九年、たてをも。博ナリ。入京馬

泥西の学徒あり、支那印度等に文留せ
為矣。是は地より去し、防寇軍番呼ガリ、
ミシ護送を以て來す。必に常に此宗
ム駆轆ムカシ、珍奇の貨物あり。又ナラニ事
かく、ち他に殷富して糧食とよいやう
放、大人を雇業とけらるゝ。衣食は良
きことからん。

チユリニスキ、チユラ河岸もあり、木柵と土塁と
城とをも、人居三百餘家。

ベツウ、阿比河の岸もあり、ワーカットの海
湾は陥落木柵を以て城とな。

カタリ子ンベルグ、孟セ百二十三年享保にヘテル市、
創て縣府をたま。孟セ百辛六年元文、女

帝カタリナの時に立て、高城とよびて
其他有名行く。イセット河、ち他は在り財に
河多洪氾溢れ、患とあひて有る。河岸
小堤とみゆまて、うそと防此地許ムナリ。此
邦第一の城とて殿しく人多く集まつた。

又勢多有する地を有り、又病院、学校、旅宿店、
多有り。

ナレイン、河比河岸に在り、小橋西十九度の地、
木柵を有り、橋保土と為モ。

トムスキトム河の河は河より河口に在り、縣府
を有して、首長をわく、けまうり防寇軍を出
して、支那の貨物と、模様可鳥に輸入又貢
尔莫奇ニ互市の大場あり。

クス子スウトム河の河岸より、け地のドイル酒の名

も上ひ不す、又燧耐ケルヒと有り、松島を以て食
充て、ナレイン以降此ニ不、あそる二十六年
享保三十一年トホルスキに廢す。

ハラバ、やは、イルチス、あ河内間アマニマツあり。

五十七九年宝永に雪陣、亞正佛せて、其時
兵と並び擄掠せし士卒ニをシヘリ小遣を
五十七九年享保三十一年に多々、ば邦
と傳モる。

卫ニセイスキ、トホルスキの東より、卫ニセイ河。

地地の中を流れて、あはる入る。故に地
小名けく、小ハサモイデシ。すまう九十四年
文禄二年、六年まで也。和氣は人を小さ
仰ぎ地方に通じる道を求めんて、そぞそ
け地よそづけたる地。少極祝肉は便く、
捨うて酒をすすり、正ニセイレナア河の口
にわづる。人あきを殊矣なり。さはうて
鷹狩りして、醜陋たり。車えりえりと、面
色黒黄、月長く、頬を膨張りて、氣球
含みする。夏は魚皮と服う。冬
は歎皮をともる。一枚の毛皮で、才にすうふた。
ぬぐふと同し。ち穴の内は住み、常は剛人を
もつて、脰肪歎と捕、枯魚歎肉と食ひ。
又一絆の夷人有、トングシ河急か居る。故に即
トングシ称も、人相中をあざむ。而も夷
の索をふくはとめて、文となす。小児を若
いを號哭す。古も如きにうそ。

セニシナリ、むも仕方にモニテ有り、ちん、御
經とヨリ、モニ、佛經也、事と有リ也、大極
一丈、あ姪、或ハ三尺ノマヌケスモ、長也は
高木トシテ、彼乞に遷移シテ、御了シテ、性
格シテ、勇悍也、常ニ狗肉と喰レシジイル
のほとあるも、今皆奉事シテ、無事也、不
の皮革、ある、アリシテ、交易の貨物ニナシス、
エニセイスキ、即此地の首縣シテ、少佐幸八
九地ナリ、エニセイ河川ニ在リ、庶民ハ多セラ
カラス、一ヤルスキ、エニセイ河川ニ在リ、馬牛羊
を産シテ、文弱シテ、糧食と呼ブ、地肥沃
なき、も、も人農耕とつゝあ矣、

イルクツキ、シ、リシ渺北内此地ナリ、度大な
き、東ハ直に大东洋ニ接シ、ある、罕四年
而保、至國に從フ、此地、一稱比夷人所、
元主

ヤクテヒトニリレナ河岸ニ沿て居る木枝と
編て六角ニ小屋を造りて住む牛する羊と
卷シ衣服を丸圓ニ似たり男は革と刺
ニサハ革と縫ぬ狗と並びサベルと捕皮
と並び貨物をたまひ收焉種强悍淫暴獸肉
乃比蒜を食ふと肉を何とかきしもゆく
迄て食ふ種亂ニモルメルチーレンを喰ひ
イルクスキ此物は首縣ナリ奉國ナリ君主の
首長は地主居ち人畜五姓除上等ハ大統十六

至設く本國の商賣ハ常ニ此地ヨリアリテ文
王十那此貨物を貿易モすと他邦の貨物
け代トシハ本國ヨリも格別ニ價ソヤル凡
ナリ、ちんを馬懦ムシテ亦酒とぬひ

シリムスキシリム河岸ニ有リ少極キナ度の
地ナリ、当地豪豊饒人民繁昌シテ極
シテ殷富ナリ、古に大河アリハイカル湖
ニシテ多くサールを產ス又湖中に小島多
く不^レ温泉ナリ此湖中北サールを產ス

フラテテ、アンガラ河乃あり、本國の人多く至り
て居、駝ニ牛ニとえて、大交易をなす。
セリンギンスキ、セレンガ河乃あり、ふさ方六十六
年寛文、城郭を築き、支那、韓靼ニ、疆を
かくらまう、倉廩五千余、火薬及薦械の
庫を建たる、周圍三餘山、而、五穀によ
り一加一。

卫チニスキ、ニハ河岸ニ在、流れてセリンカに汎
く、東南を支那ノ、城に接せば地汚穀
豊饒リ、價も極リ也。し。
エルシニスキ、正統江の岸ニあり、少極リ十二度の
地リ、重リ一十九年、元、二季、城郭を築き、
支那ニ疆と固め、けもより、小京と文禮
の使ス、通ス。

マクツキ、レナ河乃アリ、北極半度、木柵リ
りはて、海リ有リ、土地魚鹽を畜ナリ、
地四畝リ、人リ、人を農業リ、
モウカムシカツトカ、毛毛ニ妙地リ不穀ナリ。

今をオコツユイの首帥と傳ひ

オニクミンスキ

ウ卫チニスキ、并にレナホルムガヌアリ

オユツユイ、モ他廣大なる事、シベリ东小諸列
の最うちモモトハ氷海ヨリテ、モハカムシカ、
ツトカ河ヨリムヒチノモ佛陀をモム、其首
縣モ少極モナリ度、ベルヌベルタトモ石十二
度五十三分、モアリ、ボムニ舟西と云々
船と送アテ、カムシカツトカにアフリ。

ユカケリ、氷海の江岸マアリ

ツタツキ、シーリの东山の陽マアリ、ち人皆顕モ
鯨嵩と猪小兒の時トモ、莫究と穿ツツ

オルトルスキ、カムシカツトカの東山マアリ、此地尚

本國の服役セキ、時モ拒歎セリ、う年くは

近隣の諸列、东國の服膺するようく、
今も賦役をモソモソアリ、モ地主度

チ人ほのヨリ居主と遷移、室佐の所

ナリモ俗ニテテラモ猶寧にして暴處ナリ
人死すきは、毛鹿と焚く、レンヂイルを多く
產モ、多シキ一万ニムを貢モ、

ユテスキ、少極ムナム鹿三十カユテ河序モア
支那ニ協モ接モ、

アクリラシスキ、ベンシン河序ニアリ、少極六、ナニ鹿
キナ分にちる、

アナジルスキ、东北の隅アナジル河序モアリ、少極
六十九度、尚未タ全く知らず、股脛也モ、比

地也多野、大なる山海あり、三面
西寧海も一面
アルタル地と云、
イルクツキ也屬モテ、オムシカツトカニシヨ、モテ地
に大約有、カムシカツトカ河とソ、少極半度
キナリ地ト、ナリミテ大西洋に近く、忽ニ
島地も名づけナリテ、日モヤモテ奥エソニ
経セリ地ナリ、少ハシリヨ境モ接モ、又カ
ナムシラキナリ地、フスクヤニシム河あり、西に
ナリキモベシスカヤ、海灣も深く、はま此經
モカムセモ、時モヨリよもモ中地モア

山と並んで海原シマツカイも、小一比海原シマツカイよりも
アラミツアラミツ、あ小ワツアラモト、ニカラ界里ニカラケリ、モウハ本銳
ウモウ、クルリスカヤロハキカニクルリスカヤロハキカニ、少極率シヤクサ一五三
九比地クビジナリ、ベテル帝ヒメル也ハシモウ、ベテル一ル
ク比都クビドナリ、是シテ万字マニ七字セナ亦ハシモウ、
け比ケビ、あ山アヤマ、中シタも地ジニ一帶イチタウ生ヨウ綿ミン、
皆ハシモウ山ヤマ、奇アザミも石イシ山ヤマ、不毛ブモ野ノ地ジ亦ハシモウ中シタ
三ツミツ子コ大山オオヤマ、あア、おオ、トト、岩イシに烟ケム、
時ヒメ、端エンドをヲ、所シをヲ、一ツイチツアラシシスカヤアラシシスカヤ、

をも一定許のほし小さ石とよび、たゞの事で
酒に入る。其ゆゑに四人あすく、席をえま候。
沸騰して、わいをして、嘔き声あり。又
声を揚げ、嘔き聲と起して、言葉
詰りするまへ、又てさる折よりあり。温泉
の水をよそひ、わぬはまつるあり。またに詰
けり、詰りてから詰し。
地底、海嘯の如くあり。アヒのあらう、わけ
て詰まつたり。

氣候も一年の内八月分、なまの方は
常に雪の降り、大抵つゞえ、小の方も耶
て雪なく夏の氣候、甚程いねよめ敷
を生じて、但よーテルホルト、カムシカットカ
リ、袖をもげたる、雪をもぎれたり、風波
を常にあつて、うさぎの毛、鳴ら音うる
終てなまき山魚、ある價なり、ちん波草及
魚穀とも、たゞ富士山とある。あ
えまカムシカットカハ、蒙古より山と極く

地なく、馬於江に立り、心と禱しなむ
もんのあが大なる毛、並まく、皆比也
黒くして耳西洞、鼻尖り、目よぐ
肩うす、無る股、廣き肩、肺ハ被セ
が、皆酒のまに飲む、且飲食さはめ
て禱し、在くる物乞ひを、薦を其
中、御ひましむ。又モセキシモ用ゆたる、
店舗へ、ちと四からほりて、まことに柱と四本
をそ、屋根とよし、ち或ち叶ひて、度ひ

上に四角す、穴と穿て、烟出しうる
出入りうねり、なし、歩負荷犠と業者
ア、衣服を、歎波と用ひ、家吉奥、石或古
鰐北骨、歎孔角茅と云はく、木とほりく
ほり、四神めぐらして、りうちすこ、魯西
亞、うきうか、候、并よもかみ全氣も凡
たくもなきか、かとおほくありて、旅行の
せよ雪車と、いぢるを、
まとも何事も二人して、ゆきなく、密支

奸道も、つねの手にならうる風俗たり。あ
豪ふよたれをうなぐとモ」と教すすり。第
二、ちん心地鄙夷陋たりし、も國又服
従へそは、ふさる罕一多。寛保元年より如帝此
令にて、近よ太敵の令士等とは、はし
ちんと貴尊ラシモ、ふよけで、日も月もに
変化も行ゆ。古也ひづれをみ、遠から
と有る良也民ニサム。又一種の
夷人有クリレスシ。カムシカツト、南岸近

傍の海ふ住む、大陸カムシカツト皆人民也。
但そのあらゆるもの生むるを矣なり。女
子は脣と足と、男の脣のま中のミ
をそそぐる。男女共に耳に銀環をかけ、肘
より腕までの間、絆とせ拉筋といきすみ
す。右猿ニ居るハカムシカツトカに因
飲食するを却てキレいなる方なり。魚
肉及び海獣の肉と食物とも、煮丈ども
巻シマ。

ルニシテ、是と申すはアリマセ
ケツアリトケ
サケテ、第のトモヘ
教と教
はとラム

備へる事、肉と魚の食事は少く、人死すれば、必ず之を葬る。

魯西軍の此地をやうりて、主あるべく、年
え源ヨ、アクラワフ、一軍とゆひ、コーサツケン
トキ
卫カケリ、乃シコレーキヨリ、は地よいづち入
をたよ股達ヤ
元源十
の七月に本国レ仰、喜び、うるめサルの
三年

皮、三よ二石張、一ドル ラツコナ 七十七、穀四仄白
毛ぬれ紙はナ張、赤紙九千一と、帝に御一自
洋ヨウ、サール皮四百張ナフ、モ後毛モロナム
年ニシテ ニシテ 納再軍勢と起ス、ヘシシニスコイ、海湾
より、カムシカツトガに渡て、毛地、勿論、近傍カ
諸島マツタチ までうち、佐えサエ、御モロ あそろアソロ うす
享保ヒョウ 六年ロクニン ちノ金キノカネ あ西アシ よ、教タハシ し、歌對カツバ やハ
事コト にとシテ まシテ やハ やハ

賦役年とよ人々。サール。ヘーフル。机。右之品

所は、何よりも一強けり。まとまるたる。

此地は多々西西の小城立坐あり。

一ツと、ボルスター^テレツコイト。ソ、ホルスカヤ、ミソム大河

右側ヨリ、ベニシシスカヤの海灣^ヲをさす。第三

ナ三ウユルステン。

一ウユルステン三百五十九丈、ラコツコイ、通商の舶、先此地ヨリ

集まる、故に名取^ム昌^モ有^リ地^{ナリ}。

ニヒラツブルホルトカムシカツトカニ。ソ、ホケ^ク済^メの

内此城もほども古一、カムシカツトカ、河源^ヲと
去ル^ムサム十九ウユルステンホルフケレツコイの小
二百四十一ウユルステン^ヨあり、倉廩、武庫と
設く、

三と、子一テルホルトカムシカツト。ソ、ラツブル
ホルトの昂位三百九十九セウユルステンカムシカツ
ト河口と見る。三十ウユルステン、城北廣さ
方二十九丈、周に木柵^ヲと構^ム。

四とアハツカニソ、もぞる四十年

え久に速ル

アハツカ河比港すあり、
立とテキルニシホをころまする城ナリテキル
河辺メあり、

千鳥

此地の鷹嶋極リテ多シ、若きサのと左近
シルリス諸島カムシカツトカ比南岸に在リテ
西の方に連続シテ登敵在モ、若きサ、大
立寫、金釣、トモ魚、トモの、板カムシカツ
トカに附迫の所々を魯西西に送一と、キモ
離キテ、トモ所々をたのく、首長ありて祀ミ

又仰ニ、陸の地、鹿夷、又アムサリ日本
ニ文面とテリ、トモス、又日本近傍の海
一絆比毒草アリ、サフランとセモ、モ根大さ太黃の
めく多々、トモ泊夫藍名セドシ、矢ヌメ
テ敵と戦ヒユルアヒシ、萬モフランチ子ツ
テル艾アヒトクテ布と織、日和紙本紳
族番と文面、

又一大海ナリテ、そのあは、鷲と松前ヒシ、
性古ノリ日本王城郊縣邑と云々あり、

又カムシカツトカド、海路ヨクナシクナシク
ユルズ、日本之ニ勝、日本の人ナマニ國夷と称也。
ベーリング大島、大東洋のうちより在り、カムシカツトカ河
口とも有らず、六十餘里ナリ、モセラ四十二年、寛保
元年えきか比母、ベルクス始く此地ヨワフ、モドリ
八月此地に卒毛ハサウエニモモト以て、は地ハサウエ
名付く、度ハサウエ罕ハサウエア里許ハサウエ二ナウエスラン
皆毛子、豊徹ハサウエナリ石なり、地底海、晴る
日、げ海ハサウエ少ハサウエあり、雪ハサウエを多有ハサウエサ

例より、四百九千丈、北亞墨利加山脈ハサウエ、
チラメテ海、少極卒セ度ハサウエの地ナリ。

聖老楞シントウラウレス祖寫、亞細亞ハサウエの東小隅ハサウエある、千七
百二十八年に、ベーリング、號テハサウエ、祖也。
たゞ人ハサウエ紀述其後、ナシヒモテ御ハサウエ、
ベーリングスハサウエは多くの傳ハサウエを聞きたまひ、ナシヒ
少極至利加ハサウエ、西北刃卒度ハサウエの地をひ見
ゆす、その後、ソキルコウハサウエなるも、又小亞墨利
かれ西刃卒度ハサウエの地をひ見く、又モセラ六十三

年 宝曆十三年、本國より船を發し、冰海と越て、
ツクウキの北に領せナ度ノ地と廣て、又
にむりひ一の海峡ノをわる。是北亞利亞の
西端ノ、亞細亞の東端ノ也。此の海峡ノ又六
十四度北洋ノにて、角ノの傍ノと聞き也。
ちんよ義ノて、皮革と織シテ、又弓ノと為
シヒ、ベリニグス雛ノに、麁目ノと置て、是と所置
セシム。其常ノと並びてアルシニト、法魯ノと
小亞里利ノと嘗せシ也。

此海峡ノにて、より後ノ常に此海峡ノには
すリ事ノなし。是故ノて、大湖ノす。終シ卒
里ノ、隔て、小角ノ多く、僅シテ有シ也。大取
にて、至シ海ノへうシ也。且シ亞里利ノかシ人ノ、今は
既シ巴ノ義化シて、もリしらぬく、殊異不倫
れ俗ノもあリ。これは、小船ノと用シも、けレ怖シ。
之ノ車ノも、わリまリやリ、上ノに設シくやシく、至シ
大難シ。難シ、及び东方ノ諸國ノに通シす海ノと
聞シ也。昔シ西亞ノの冰海ノより、船ノと發シシベ

りの海序よ添て、をくカムニカツトカにソク、ぬ
て新憎白隴の海する事と明白に知る
事、但此海はもはや艱險なり、氣候極も
て々々常に脅ひ受けす、又饑勞もあく
あく、天風変乱、初々すまほ全舶盜難に
なる、只海浪比々々々す、シベリの頻海の地は
はく凡濤の半に害を受キ事々々り、
ま葛沙山脈の地を心も海ニ、思ふえ向を
亜細亞歐羅巴分界の處よ在ト、河よ摩し

熱河尔入亜に接し、地勢万形して縱横三
百里許、大小韓靼より、至モ亦を極一地也、
あせる二十二年、享保七年、ベテル帝、けんを傳せ

ねりくア

七

正原か正印、幅員百二十餘里、一ひき魯西亜に
満ひ、一ひき東洋、乍リ、年々脅ひ、
ち俗を田獵農耕と業ど、又高產を競、
け地の婦人極めて羨慕す、常に彩衣
の衣裳を制し、粧ひ飾る、四、五枚ほどす

宗毛、又良馬と產毛、主毛と健俊の價も
あこむまー。

クバニ アソウの西隅ヨカリ、リモダル 振り不脇
にて、魯西亞ヲト主にアモリー。ヘル帝
ビニモリ、女帝 ^アカナの時、ふさる辛年 ^辛保
年ニ至りて、強て股後サリメテ、
カルチヨン、亞私を纏耳の侍より、奈ニ郡
マアウタ

タケスタン少主海岸より、万尔西亞ニ 城と

持モ、ち人四百名を主宗毛、以地にて本国ニ
百尔西亞ニ、大支局を為モス、貨物、小字
海づ、船々、駆除也リ。

魯西亞人物

其人長大シテ、容儀端正也、主政恭敬
和順、志も勇壯果敢、事々陰人を
窮セシ、飲食を蕃菁、青菜、麦葱、於此
魚肉の膚、燒研を常飲、主のうど、午膳
以後、左麻敷列、又温酒を浴シ、初弱

より、お行やりて食を消すむ。若人
を煙草を喫す。だに鼻烟を用ひ。軍人
煙草を喫。且つて燒酎及づき酒と喫
む。常に深店よりをとぬす。化邦ハシムにてく
事と猶し。より、やまハ、駕賓玉瀬。死
にさうと変せす。まと握り。且
日本吳邦と偽應て尚帰らる。ああ
と、今車をうけられをやます。よく其事とな
れば。まよひ。またも車く拳毬ひらき。

朕入尔馬泥画拂帛案の割と用ひ。且
とも、美良、物の様たり。常人の被、錦布と
同ゆ。旅人を舞と判らむ。

或ふ小浴場と没く。

行路ハ、至る礼讓とぞも。之を

は詳なます。

言語ハ、レスラホニヤの如きを轉キリイスす。
今も在カ西亞洋と稱え用ひ。

文字ハニテ四字カク

達磨魯一や室に船あめのまなづ
ベテル帝れ時、つときて船あめはと調練
せりが主徳にうちくわんじて、主徳女帝ア
ナヒはよひて水敵、傍徳もすよもあ

然るべし。今度は一枚もみの強敵だ。
相手が文弱だ。王族、サバキセ派の大物と強
てゞかり。手法といふところは、アラカル
十九年。元々凱旋ぢやうれしき事は海よ。

故人北望天子之使

女帝アナ廟す時、御内割金を送布
女帝エリサ一トの内、ソラテ風を改
め古俗とあええく、御内と布き、ほこり
て下り、风移も移ふに、良に移りて、尚今
女帝カタリナの附ソラテ、御
地も、廣き、叢化も、伊豆益昌たる古
は婦人の服事あらうけたりに、ベ
トヒ帝、入尔馬汎重の、服と用ひ、毛風俗と

掌をひしむ。但し白粉と用ひて、西色のあき
と、はて黄土のうら。

麦法

尼^{ナリ}カ西亞^{イス}の麦法^{マツハ}とす。あか白七年、永に
尼カ西亞の麦化^{マツカイ}と云ふ。漢引可烏^{カウ}、
麌^{クニ}と建^{タシム}。

少火に名とす。火を運馬人の火。但其
火のひどり、水と灌^{アヒ}うと、オと水^ミと浸^{アヒ}と
え下^{アヒ}とす。年老の人々に麦^{マツ}と

名とあたる。先が薦師^{セイシ}の法^ハと神事^{ミツ}半
百^ハを^{アヒ}おのき法^ハと改^{メテ}す。財^{カニ}と^{アヒ}と傳^スす。呼^ハ
玉^{タマ}大^{カウ}麦^{マツ}と称^スて、^{アヒ}と名^シす。け際詳ならん。
之後布山^{ハシヤ}服^{ハラフ}と衣^{ハラフ}。此^ハ袖^{スリ}とめ^ス。幅^{ハラ}幅^{ハラ}と
持^{ハサフ}。袖^{ハラフ}下^{アヒ}せら^{ハラ}方^{カニ}、自色^{ハラ}の毛^{ハラ}端^{ハラ}とゆ。、
弟^{ハラ}水^{ハラ}活^{ハラフ}。名^{ハラ}と改^{メテ}。是^{ハラ}も^{ハラ}元帝^{ハラ}。
之^{ハラ}、毛^{ハラ}と改^{メテ}。是^{ハラ}と改^{メテ}。是^{ハラ}も^{ハラ}元帝^{ハラ}。
其^{ハラ}改^{メテ}法^ハと易^{ハラフ}事^{ハラ}。、始^{ハラ}而解^{ハラフ}。以^{ハラ}

禁教、ちぢと、学すむ事とましくんじ、べテル帝の
財、次羅巴法國ト、有名の學士と連く、
謨那可烏の、學校と達て、せ後と教を守
えぞくし、又名山の言語と打て、年幼のよハ
先教の學とめぞむ、専ら學業、永久に篤
人をん事とぞく、キラウ、及び、ベルスベルク
ル、學校とこそ、多くうちはと設け法國の典
籍とあつり、たなに会一一人に益ある書と
ハ、とく國内に訳し、刊行せしも、又千

七百二十四年、享保正月に入尔馬泥亞、雪深亞、
拂烏擦、帶札を厚して、有名の師儒
とむく、庫の書、二五部とぞ、も角よを
捺擦して、古藝、窮理の書と編セラ、
又百工の伝度とほけて、業と習へりんを
企う、早と修らるる内、笠重る二千
六年、享保に崩れ、而カタリナ、昂位
ありて、またと續ま、かせる二十六年、享保十一年
に、学校とくく教をも、すば廉さんがも

なし、二歳のうち費用二万四千九百ナルワニテス
全科固方ミサキたちこそ、医学の科と云つ、所謂医学、
史書学、窮理学、及般學ヒンガクなどあり、あまに師儒
各先生便イシタシと考シテ試シテ、健進ケンジンある也。此名シラメと云
いてある。又而之の仕度ハセダは、他カ諸般のあまと
講、典、政と刷シ京キョウ、并に書と饒シ多と學シむ
又至工、至工、旋工、焉ハ地而工ハと考シ喝ハグ、モ費用
毎年、二万八千二ハナ六ルワールスナリ、あ學校
の費用全シマツて、ハ万三千二百八ハルワールスナリ。

此教育に就くて、學術、巧藝、モ奥僻シカクとゆる
もの、日々々昌んシマツくとも、

又ヘルスヘルクの學校も、音ヨウ科、吉ヨシ科ヨシとある、治ヨウ科
政治ヨウセイとある、醫ヨウ科、疾病ヨウビと療ヨウす、道ヨウ科、变化ヨウガと與ヨウす、
乃ハ四科ヨウとわらひ、日夜専精研究ヨウゲンせりめらる、
五十七年、二年、寛保カントウに、其述作シラフ、書目と兵
國事ヨウコトと記シテする書、二万四千九百八十セ郎、
七十五年、シテに、宝庫ヒラフを達シテ、天慶テンケイ人ヒトなり

奇品異貨と收め、すこまく蟲魚名物百只
にります。此一テル帝、すこむる九十八年元禄九年
十六年享保元年にアルベルトスサハナムアラベラ、
タニツシフフロイゼンの地アラベラにて、
集め、之を地法玉全形、所用、窮屈の
若月子備りさるも、又ふ十七年之二
年享保十七年に、一テル帝の肖像と並んで、ヒエルト、
の御よ、身の衣甲と扇も、これと室

庫よたまひ、まほ常に四方の奇品異器と
もとあふ。今よどうてハ浦内め極珍奇とて
政^{セイ}教^キ物^{モノ}まても、至く不^{アシ}珍^シはな
政治 此候官名ふ詳ならぬゆへ解
古魯西里の君^{モハ}は、ホルスト、將^{マサニ}
コロートホルスト、大^オナリモト、モラカサール^{モラカサール}
ヘテルよどうて、始^ヒ帝^{テウ}と称^スて、室^ムよ五七^シの辛^{ハチ}
一年 享保、事^ハア、未^タ既^シ夜^ノ、尔^ハ格^シ帝^{テウ}と
争^シり、一^ハ七年 寛保、元^ハまほ魯

西亞よ歸れ。ちう、尚今女帝カタリ十は子
セ万四十四年、延享えいの七月、宮に降誕ありて、
モモロニ十二年、宝曆ほうりに歸住也。

兵制

魯西亞帝隨身兵けいゆ三十万、千七百
三十一年、享保こうほ女帝アナ・テルスベルグに袁場アムと
設く、名軍師アーミーミテ、操練せしむ、又
ヘテル帝、窩ク所德海トシ、十二トト戦艦
を造りて、水軍と准備也、第一号の船九隻、

高船、軍卒五百、鳥銃六十、第二号の船、平
隻、高船軍士三百六十、銃六十、第三号の
船、高船軍士二千六百、銃四十、第四号
船、高船軍士一千八十、銃三十六、第
五号の船、九隻、高船軍士七十二、銃二十四、火
船四隻、快船十八隻、捕盜船、万隻、合ハ一
軍士万八千、鳥銃二千五百、是と一隊とて、
本國より、又と造りとすすめ、テルスベ
ルク、及ひアルカンケルに、多く船と集め、賜

ノ、船と造リシム。女帝カタリナの時、軍
船一万三十隻と造リ、軍士三万人と兵士又
千セラウナ六百に、軍船二十三隻、快船七隻、駁
船三隻、駁船四隻と造り、水軍一方と號す。
今又、テルスルクモ、軍船三百隻と造リ、添
一キトリシム。常に二万兩ドルスを以て、軍實
に備へ、一日を消耗費より充て、一石は糧食也。ケヌテム
ベルテビナル、諸島の地、ケイズルレイキトノイ子ニ洋ニ
洋に充て、一トモ、殊ホツアス。灰けのれ 大黄、瀘青。

臭油等の價、よ充て、

文易

此邦りつとも支那とよす、凡貨物と他邦
にたゞよせん。支那の貨物と互換也。他邦
の風土とちて、もとの称を失ひ、不知とあら
うて、不う、紋をと安ふと、千セラウナ六年、官
年に支那そりゆくを以て、金ニ三万セラウナ三万
セラウナ四ルーパルニシム。

政羅巴法國、本邦と互市する者、諸入り利亞

ニ第一ニドモ斗支函の市、他郊より至りて
次ハ子ードルヌニトシセスティー（テニ）前那アホカ
の地
等の支函とりとも盛り上り、も互市の
場マーテルスベルクと最も大也。

支那の支函はまた馬車カミナリなり、貨物と道
の防護軍といふも、フカラテ契利キリム、年百
六西里等の互市も利とゆき廣大なる、
冬ハ雪車とりばて貨物と移送也。

魯西里志終



坂上久吉